

図書館だより

2025年度 第4号



企画展示

図書委員が選ぶ、 モンスターの本

徳島県立図書館にて
9月21日まで開催中

徳島県立図書館企画展示「図書委員が選ぶ、モンスターの本」が現在開催中です。

この企画展示では、県下の高等学校図書委員が応募した「モンスターの本」の紹介文が本とともに展示されています。

本校からは3人の図書委員が参加、展示されています。下に紹介文を掲載します。

文化の森総合公園にある県立図書館の1階ギャラリーにて、展示期間は9月21日(日)まで。ぜひご覧ください。

紹介文

『ダレン・シャン奇怪なサークス』

3年 図書委員

Darren Shan／作
橋本恵／訳 小学館

この本は、少し怖さもありながら読んでいくにつれワクワク感も増していくのでとても面白いです。

ダレン・シャンはどこにでもいる普通の少年でした。しかしある日、シルク・ド・フリークという怪しいサークスに足を運んでから、彼の運命が大きく変わっていきます。このサークスは普通のサークスとは異なり、妖怪や不思議な生き物たちが出てきます。そして、この物語で私が最も印象に残った場面は、ダレンの親友であるスティーブの命を助けるために、ダレンが半パンパニアになることを選んだところです。そこではダレンの勇気や友情を大切にするところに感動しました。他にも、ダレンの人間としての成長や選択が描かれている場面がたくさんあって魅力的な作品になっています。

この物語を読むと、ダレン・シャンみたいに勇気を持って友情を大切にして頑張ろうという気持ちになれるので、お薦めです。

『夜廻』

3年 図書委員

日本一ソフトウェア／原作 保坂歩／著
P H P研究所

私が紹介する本は、『夜廻』です。この本は、大人気ホラーゲームの夜廻が小説化されたものです。

この本に登場する主人公の少女は母親を亡くし、姉と愛犬のポロと生きてきました。ある日の黄昏時、妹がポロの散歩をしていると、突然大きな影がポロを連れ去ります。何が起きたのか理解ができないまま一人で帰ってきた少女を見た姉が、ポロを探しに夜の町に出ます。遅い時間になんて帰ってこない姉を待つ少女は不安になり、姉とポロを探しに夜の町に出ます。しかし、そこには恐ろしいモンスターたちが待ち受けていました。モンスターたちとの戦いでは危険が迫ってピンチに陥り、すんでの所で殺されかけるシーンもあってハラハラします。果たして、ポロはどうなったのか。姉は見つかるのか、ドキドキしながら読み進められる一冊です。

この本は、文章が読みやすく、夜廻の世界観に没入することができます。また、先の読めない展開が設定されていて、わくわくするような魅力があります。ぜひ読んでみてください。

『平成狸合戦ぽんぽこ』

3年 図書委員

高畠勲／作 德間書店

自然の恵み多き、東京、多摩丘陵。そこに住むタヌキたちは、のんびりと密やかに暮らしていた。しかし、宅地造成による自然破壊によって、タヌキたちのエサ場は次第に少なくなっていた。自分たちの住処を守るために、タヌキたちは先祖より伝わる「化学（ばけがく）」で人間たちに対抗しようと立ち上がる。そして自分たちの住処に近づく人間を妖術で撃退する。

この本は、とても痛快で魅力のある物語です。「平成狸合戦ぽんぽこ」はスタジオジブリでも放映されています。モチーフの地として、民話「阿波狸合戦」に出てくる小松島の金長狸を祀った神社も登場して、徳島にもゆかりがある話です。『平成狸合戦ぽんぽこ』は笑いあり、感動ありのとてもすばらしい物語なので、ぜひ一度読んでみてください。